

ちませぬので、甚だ失禮ながら此に一千五百部を印刷に附しまして、諸名士並に厚知諸賢に登呈し、口述に代ゆる次第であります、何人にも納得が行く様にと、忽々の際大体上の説明を主としましたので、字句の冗漫や数字統計の大雑把なる所は、幾重にも御容赦を願つて置ます。

昭和三年二月十五日

筆者謹記

朝鮮統治意見書

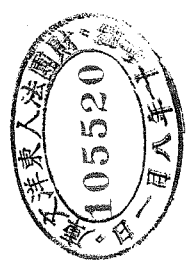
附人口食糧問題



朝鮮をどうするか、に就ては我が國國民は餘りに無關心である。

或は曰く、一視同仁は明治大帝の遺詔にして、内地延長主義は原内閣以來の國策である。齋藤名總督は此の大趣旨、大精神を奉して、内鮮人の共存共榮を標榜し、産業に、教育に、銳意勵精したるが爲に、治績大に擧り、全道の鮮民も、今や大に王化に霑い、總督政治に謳歌悦服して、全く鎮靜安定するに至つた。偶々各地に突發する不逞鮮人乃至主義者の妄動の如きは、一部狂暴の徒の所爲で、深く憂ふるに足らずと、一般人士は概ね茫漠として、左様に安心して居る如くである。

吾々日本人は果して斯く安心して善いか、往時寺内總督以來、總督府は銳意鮮人の安撫に努め、幾ぶか鮮人の申出によりて土地所有權を追認し、驛屯士の拂下といひ、山林、荒蕪地の下附といひ、鮮人の縁故申出によりて、獨り鮮人のみに許可し、内地人の利權屋を征伐し、内地労働者の流入を防ぎ、大に鮮人の保護扶掖に勉めしが爲め、鮮人の官府に出入する者は、往々紋付羽織袴を着用し、上流貴婦人の如きも、公會式上に於ては巧みに「君が代」を合唱し、大に日本化を誇示し、假裝太平を頌して



居た様だが、朝鮮全道に亘りて組織立ちたる大正八年の「萬歲騒ぎ」勃發するに至るまで、一鮮人之を豫告する者なく、總督總監以下、變を聞て、驚然たりしが如き手拔かりを再演する心配はないか。事勿れ主義もよいが、餘り度に過ぎて國民の耳目を塞ぎ、平然として噴火口頭に舞踊するが如きは、危険之れより甚しきはない、臭いものに蓋をしても腐敗物の臭氣は何時かは外間に洩れ出る時が来る。「依らしむべし、知らしむべからず」の時代ならばイザ知らず、輿論政治の立憲治下に於ては、多少は一般國民に真相を知らしめて置かねば、實際政治は行はれぬ以上寧ろ真相を内鮮人の前に公開し、平生眞面目に研究せしめ、大悟徹底して歸する所に歸せしめたが安全ではないか、目前を纏縫して未來の大患を遺すのは危険千萬である、是れ予が敢て卑見を披瀝して大方の君子に問ふ所以である、當局官憲も此に目覺めんことを望んで置く、外國人は常に何事でも日本人より夙くの昔に真相を熟知して居るではないか。

- (一) 内鮮人は果して共存共榮主義によりて、同化し居れりや
否な、毫も同化し居らず
- (二) 未來永劫、同化し得ざるや
否な、必らず同化し得べし
- (三) 内鮮人は内地延長主義によりて、雜居雜婚し居れりや

否な、概して双方より雜居雜婚を忌避し居れり

- (四) 未來永劫、雜居雜婚し得ざるや
否な、必らず雜居雜婚し得べし

- (五) 内鮮人は元來異民族なりや
否な、元來同一民族なり

- (六) 日本民族の祖先は日本島に生れ、日本島内に籠居したりや
否な、古昔は日本島内に限らず、朝鮮民族、滿洲蒙古民族の祖先と共に同胞關係にありて、轡を駢べて朝鮮、滿蒙、西比利亞の曠野を舞臺として馳驅したる証跡あり。

然るに一般内鮮人は反つて之れに反對の見解を抱き、總督政治も亦た之れに迎合し居れるが如きは、怪訝に堪へざる次第である、請ふ少しく之れを述べん。

統治上より見たる朝鮮

或は曰く、朝鮮民族は五千年來の文化と歴史とを有せる墮落文明人の果て、大國支那と雖ども數々政治的には征伏したが、終に民族的には同化することが出来なかつた、英帝國の印度の治績に觀ても、鮮人を同化することの不可能は明白である、我が國は朝鮮民族の保護と啓發とに當り、大に教育を施

し、産業を興し、以て通商貿易を盛んにして、間接に相互に利益する程度に満足せねばならぬ、加ふるに朝鮮は瘠土貧國で、古來土地と人口とは一杯々々となつて居る、此の上更に我が國より農民其他の労働者を移住せしむることは、不能で又た絶對不可である、何となれば是れ朝鮮人の職業を脅し、土地を削減し、食糧を奪ふこととなりて、朝鮮人の危惧心を鋭り、過激思想を誘發するからである。總督府の如きも朝鮮人を安撫せんが爲に、各種事業の出願も、朝鮮人と協同にあらざれば許さず、内地人の競争事件は専ら朝鮮人の肩を持ち、朝鮮人の意氣は日々に軒昂たるに反して、内地人の壯氣は日々に銷沈し、内地人は次第に都會に集中し來りて共喰ひの非況を呈し、年々郡村より引揚げ來るに反して、郡村には其手を延ばす能はず、隨つて市街地を高價に賣却したる鮮人は、之れと反對に郡村に密集し、反つて市街地の表面假裝的の繁榮を羨やみ、今や舊韓國時代の虐政を忘却して、寧ろ日本を怨恨咒咀するの情、日一日と昂進しつゝあるの情態である。

然るに總督府の治績は年と共に大に擧り、今や舊時の文物風景は、全く面目を一新して、殆んど別天地の觀を呈して居る、今試みに明治四十三年の併合當時と、十五年後の大正十四年とを對照すれば、一千万石の米作は一千五百万石となり、七百八十万圓の水産は八千五百萬圓となり、六百萬圓の鑛産は二千餘萬圓となり、一千八百萬圓の總督府の財政（歳出）は一億八千万圓となり、一千九百万圓の移輸出は三億四千万圓となり、三千九百万圓の移輸入は三億四千万圓となり、六百九十哩の鐵道は一

千八百哩に延長し、禿山は青く、枯川は清く、道路交通は四通八達、山村僻地に及び、官公私立の各種學校は津々浦々にまで普及して居る、若し十五年前の併合當時を知る者で、卒然として十五年後の現状を見たら、定めし目を廻はして驚倒するであらふ、嗚呼何ぞ其れ盛んなるや。

この増進せる文化と福利との恩恵に浴しつゝある者は誰ぞ、請ふ左表を觀よ。

明治四十三年	朝鮮總人口	一千三百三十二万三千七十七人
	内地人	十七万二千五百四十三人
大正十四年	朝鮮總人口	一千九百五十二万九千九百二十七人
	内地人	四十二万四千七百四十八人

乃ち併合後、十五ケ年間に、朝鮮總人口の増加せるは六百二十万餘人にして、内地人の増加は僅かに二十五萬三千餘人に過ぎず、朝鮮人は毎年平均四十餘萬人の増加に對して、内地人は僅かに一万七千餘人の増加に當り、その中、先住内地人の自然増加を差引けば、内地よりの移住者は毎年僅かに一萬餘人に止り、内地の過剰人口毎年七八十万乃至一百万人に對比せば、殆んど没交渉の觀がある。

然らば則ち併合後十五ケ年間の善政美績に露い、この激増せる福利と文明開化の德澤に浴せる者は、全く朝鮮人其人ではないか、今試みに朝鮮人が生命財産の安固と保證とを得、文明福利の増進の爲に、如何に大なる膨脹發達を爲しつゝあるかを左表に就て見よ。（十月一日現在の國勢調査による）

内地	大正十四年	大正九年	一ケ年ノ平均増加	増加率
朝鮮	五九、七三六、八二三人	五五、九六三、〇五三人	七十五万人	六分七厘
	一九、五二九、九二七人	一七、二六四、一一九人	四十五万人	一割三分二厘

今や日本内地人口の増加は世界の第五位に居り、朝野を擧げて頭を悩まして居るが、朝鮮人の増加率は内地人の倍額に上り、非常の勢ひを以て繁殖して居るではないか。

乃ち内地人は大に朝鮮人を保護、啓發、教育し、十五年間の努力と好果とを擧げて、朝鮮人の獨占に一任し、總督府は殆んど朝鮮人の番犬となりて、内地人排斥の役目を請負い、玄海灘を關所として、釜山の玄關口を堅く閉鎖同様に取り扱ひ、内地に仰ぐ所は獨り資本と學術技藝と貨物とのみに止り、以て大に朝鮮人を庇護、抱翼、育成し居れるに反して、朝鮮人は誤解と猜疑と因習と感情とのみによりて、内地人を怨み、内地人を咒い、反抗、反撥、反噴の氣風を増長しつつあるは、迷囚も甚だしいではないか、是れ畢竟誤解せる民族的僻見に歸着するに外ならぬ。

我が官民は何故に積極的に朝鮮人の迷囚を覺破せぬか、何故に根本的に民族的僻見の誤解を説破せぬか、我が官民は餘りに腫れ物扱いに過ぐる、餘りにお人好しに過ぐる、餘りに馬鹿遠慮に過ぐる、餘りに外國の思惑に氣兼ね過ぐる、繼兒根性のヒガミに氣兼ね過ぐるは、繼母の常ではあるが、去らば何故に繼母として乗り込んだのであるか。

内地人は少數の富豪の外は、殆んど併合後の利益を受けては居ぬではないか、總督府は殆んど朝鮮人の用心棒となりて、内地人排斥の役目を遂げて居るのみではないか、若しも國防關係のみならば、攻守同盟を結んで國防を引受けても充分である、我が國の保護指導の下にさへあらば、内地人の驥足を伸ばすには、總督政治の下に於けるよりも自由自在である、今や内地人は一利をも獲ずして反つて百害を受けんとして居るではないか。

若しも繼母にして徒らに世間態を憚りて、繼兒の偏屈執拗なるヒガミ根性を矯正、啓發、薰陶するに適當なる方法手段を執る能はずんば、深く自ら引下がるの外ないではないか、總督府はジレ馬に懸つて居る、現今の總督政治は姑息、糊塗、愉安主義である、予は寧ろ此の如き其場逃がれを非認す、斯く云はゞ當局官憲は必らず目を瞑らすであらふ、然れども知らぬは内地の官民のみ、在鮮の内鮮人は皆な悉く之を知らないものはないのである、誰れか齋藤子を名總督と云ふか？

若し現状の如くにして、朝鮮人の富強を増進するは、恰かも母犬が狼兒を哺育する様なものである、吾人は繼母根性を脱却して、根本的に朝鮮人の繼兒根性を矯正、薰陶せなければならぬ。

今や世界の犬勢は、蒸汽萬能の時代を去りて、電氣時代に遷らんとし、汽車汽船は將に飛行機飛行船と代はらんとし、世界は漸次縮少して、英米獨露も比隣接土とならんとして居る、而して人種競争は愈々激烈を加へ、白人種の異人種壓迫は益々猛烈を極めて居るではないか、此時に當りて、朝鮮人が

獨力を以て其國を維持し、民族の生存を保持するの絶對不可能は、自明の理であり、既知の事柄である。朝鮮人は思ひを此處に致さねばならぬ、總督府も此處の道理を打ち明けて、徹底的に理解せしむるを以て、鮮人教育の第一義に置かねばならぬ。

現今世界に羅列する各國は、漸次に合同して大國となり、以て互ひに相拮抗して、其國土と民族との保護、發達を圖りつゝあるは、世間周知の事柄ではないか、朝鮮人の合邦して協同生存を圖るのは、目色、皮膚、毛髮を異にする異人種にあらずして、その皮膚を同ふし、その容貌を同ふし、その血統を同ふし、その祖先を同ふする、同一民族たる日本民族でなくて、天下何人があらふ、日本人も亦た島國根性を脱却して、衷心より朝鮮人と愛着抱擁し、朝鮮人を教育、薰陶、同化することに努めなければならぬ。

朝鮮人は本來遊惰安逸の亡國的國民ではない、今日の現状は、李朝以來の濫學中毒と、多年の虐政、暴政との結果である。觀よ朝鮮人の體力は強健である、意志は堅固である、故に乘寡敵せざるが爲に、政治的には數々漢人に征伏せられたが、その肉體と精神とは終に征伏されては居らぬ、依然たる朝鮮民族の血統、體格を保存し來つたではないか、是れその根底に強力なる或るものを藏するが爲めである、換言すれば古來北方の強と呼ばれたる蒙古、韃靼及び我が日本民族と同一民族たるが爲めではないか、コハ予の一私言ではない、今日人類學者の間には、既に公認せられたる定説である。

國家は十年を以て起り、十年を以て亡び得る、予は内地人が朝鮮人と雜居雜婚して、三十年間の教育を施さば、必ず朝鮮人を薰陶同化して、立派な日本人と仕立て上げ得べしと確信する、是れ豈が朝鮮人自衛の唯一手段ではないか。

我が國官民は何ぞ此處まで徹底させないか、此の如くして始めて一視同仁の聖詔に副ひ奉り、共存共榮、内地延長の實を擧げ得るではないか。

人口食糧上より觀たる朝鮮

我が國內地の人口増加は、大正九年の國勢調査より、同十四年の調査に至る迄で、五ケ年間の平均増加は、毎年七十五万人に該當するも、更らに近年は著しく其速度を加へ、大正十四年に於ては實に八十七万を算し、同十五年に至りては約一百万に上らんとして居る、此の趨勢より推せば、二十年後に至りては、確かに二千餘萬人の増加を見ることは明瞭であらふ、然るに我が國內の産米は、現在に於てすら既に八九百萬石の不足を生じて居る、二十年後の不足は想ひ見るべきである、是れ近年人口食糧問題の天下に喧しき所以である。

現内閣に於ても人口食糧問題調査委員會を設けては居るが、一向耳新らしき名案もない様だ、大に海外移民を獎勵しては居るが、何處に持つて行くのであるか、ブラジル其他の南米各地と云ふが、今後

鮮人互に融合同化して、實力さへ内に充實すれば、前途は頗る廣濶にして有望だ、安心して可なりではないか。

不變の國策を建てよ

朝鮮の民心は、萬歲騒ぎ以來、アツ付いて居る、上ツ調子となつて居る、總督府與みし易しとの感念が増長し切つて居る、而して總督府の態度は餘りに腫れ物主義である、餘りに糊塗主義である、餘りに事勿れ主義である、若しもこのまゝで進んだら、他日意外の變事が勃發するは明瞭だ、是れ第一朝鮮人の不爲めではないか、露骨に直言すれば、朝鮮人は餘りに繼兒根性がヒド過ぐる、我が國の官民は餘りに繼母根性に囚はれ過ぎて居る、若しも世間の誤解がコワイ位なら、始めから繼母に住み込まねばよいではないか、朝鮮人の繼兒根性は傳統的である、遺傳性である、若しも眞箇に朝鮮人を愛するならば、本氣に陶冶薰育せねばならぬ、其場逃れではイカヌ、世間の氣兼ねばかりではイカヌ、現時の如く、徒らに學校を造り、學問を勧め、體操を教へ、富源を興へて、サラ成人の曉はどうなるのであるか、先づ其のヒガミから矯め直さねばならぬ、それは眞摯なる愛と慈みとを興へて、ヒガミ根性を和ぐるのも必要ではあるが、同時に又た凜乎たる威嚴をも示さねばならぬ、齋藤名總督(?)の文化政略は、内地のハイカラ連には好評であらふが、朝鮮では威嚴を欠いて居た、朝鮮人が黙つて

居たのは、我儘が通つたからだ、利用が出来たからだ、自由がキイタからだ、朝鮮人の眞骨頭は少しも變つては居ない、否な寧ろ反對に猛進しつゝあるは、餘りに繼母主義に囚はれ過ぎた結果である、餘りに其場主義、世間態主義にカブレ過ぎたからだ。

朝鮮半島は日本全國の三分の一弱に當る、然るに國防の重任に當る軍隊は僅かに二箇師團にして、内地の七分の一にも足らぬ、日本島の國防は主として海軍、空軍でなくてはなるまい、朝鮮半島は日本島の前衛のみではない、朝鮮駐屯軍は更らに滿蒙所在の日本臣民(勿論朝鮮人も含む)保護の大任をも持つて居るではないか、關東州駐屯軍とこの二箇師團では威力が足らぬ、故に予は先づ内地の五箇師團を交替的に朝鮮の各要地に増配するの急務を認むる、是は決して軍國主義にカブレたる爲めではない、軍備は戦はんが爲めではない、戦はずして平和を確保するが爲めである、朝鮮の民心を安定するには、恩威並行はねばならぬ、一方には大に文化政略を施して仁政を行ふと同時に、他方には軍隊の威力もなくてはならぬ、コト古來からの定説ではないか、七箇師團を朝鮮の樞要地に配置せば、不逞鮮人の警備費は殆んど不用となる、左らば費用の心配はないではないか、如此して朝鮮の民心も鎮定し、滿洲の匪賊も、排日騒ぎも、立ちに其跡を絶つであらふ、此等は畢竟威力が足らざる爲めである、ナニモ張作霖や、楊宇霆等にまで翻弄せらるゝにも當るまいではないか。

繰り返へして云ふ、此の如くにして徳政を施さば、朝鮮人の迷夢も此に始めて醒め、世界の大事は漸

次に合邦して大國となり、以て互に相拮抗し、白人種の異人種迫害は愈々激くして、小國の遂に大國の間に介在獨立する能はざる所以を大悟徹底するであらふ。

我が國官民も亦た此の世界の大勢を豁悟し、島國根性を脱却して、有史以前の祖先の大襟度に返り、眞箇に朝鮮人を愛着同化するのみならず、更らに進んで滿州蒙古の同一血族をも抱擁愛護して、以て未來の大活動に備へなければならぬ。

予は産兒制限に反對す、胎兒墮殺に反對す、島國籠居主義に反對す、退嬰自屈は亡國の基である、興國進取の維新の宏謀を没却してはならぬ、三代目何とかと云つて、昭和の時代思想は餘りに文明カブテ居る、内治も必要だ、國內の階級闘争も勿論輕視するではない、驕れるもの、富めるものの壓搾横暴は固より公平正當に引直さねばならぬ、然れども之れと同時に我が民族の保存、民族の發展、民族の繁榮も重且大ではなからぬ。

予は現今の民心が餘りに目前主義に囚はれて、國內の黨争のみに耽り、實は海外發展を輕視して、表面南米南洋などに氣安めを求め、國定百年の大計を忽諸に附せんとするの傾向あるを觀て、衷心憂慮に耐へざるものである。

願くは獨り朝鮮のみに限らず、關東州、臺灣、樺太方面に於ても、速かに一定せる興國進取の國策を確定し、内閣更迭する毎に、國策の動搖する如きことなからんことを切望に堪へない。

昭和三年二月二十五日印刷 非賣品
昭和三年二月 一 日發行 以印刷代口述

東京府下中野町字本郷七拾六番地

發行人 岩 佐 善 太 郎

東京市下谷區二長町五番地

印刷人 佐 藤 寅 治

東京市下谷區二長町五番地

印刷所 佐 藤 印 刷 所